

第16回

国際ボランティア ワークキャンプ報告書

16TH INTERNATIONAL VOLUNTEER WORK CAMP

テーマ News ～広げる世界、届ける未来～

Tシャツに込めたメッセージ

テーマにあるNewsという言葉は東西南北の頭文字を表しています。このことをコンパスで表し、情報社会のこの世の中で見て見ぬふりをされている問題を私たちが拾って、共有していくという意味が込められています。

また、7つの分科会を通して、参加者の皆さんには勿論、ECの私たちも新しい自分に出会ったり、自分の進む道を考えるきっかけになったり、さらには、自分の世界を広げるきっかけになるといいなという思いで今回のTシャツのデザインをしました。

P.S

矢印が分科会の数（7つ）あることに気が付きましたか？



※第16回国際ボランティアワークキャンプin ASOは新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、ECがこれまで準備してきた活動をまとめ、報告書として発行します。

はじめに

本来であれば、令和3年8月6日から8日に国立阿蘇青少年交流の家で開催予定の第16回国際ボランティアワークキャンプ in ASOでしたが、熊本県内の新型コロナウイルス感染症急拡大の影響で急きょ、直前での中止となりました。県内の高校生100人以上から参加申し込みをいただき、高校生実行委員（EC）、事務局ともなんらかの方法で開催したいと試みましたが残念ながらありませんでした。

しかしながら、ECが3月のオリエンテーションから4ヶ月以上をかけ準備してきた7つの分科会活動には彼ら/彼女らの思いがいっぱい詰まっています。その思いを、中止で残念に思っている高校生達や学校の先生に伝えたくて、「ECだけのボラキャン（分科会活動）」を実施して動画に収めました。

本報告書には、ECの成長の記録だけでなく、皆さんと分かち合いたくさんの学びがちりばめられています。最終ページに動画のURL等を掲載しております。ぜひ、ご覧いただけたら幸いです。

Contents

- 01 はじめに
- 02 興梠先生の講話
第1分科会 ～子どもの権利～
- 03 第2分科会 ～Well Being・より良く生きる～
第3分科会 ～多文化共生～
- 04 第4分科会 ～教育～
第5分科会 ～国際協力～
- 05 第6分科会 ～情報～
第7分科会 ～環境・プラスチック問題～
- 06 実行委員長からのメッセージ
動画配信のご案内



(7月18日に行った事前視察にて)

目的・概要

高校生、大学生等「若い人材」の「生きる力」を育む。

21世紀の教育におけるキーワードを「国際」と「ボランティア」と位置づけ、高校生が日々地域でのボランティア活動を点検しながら、自ら企画、運営するワークキャンプをこれまで計画・実施してきました。

第16回目を迎える今年の国際ボランティアワークキャンプ（以下「ボラキャン」と記述）では、「News～広げる世界、届ける未来～」をテーマとして掲げ、伝統を大事にしながらも新しい考えや変化を積極的に取り入れ、自分達らしい「新しい」ボラキャンを作り上げたい、そして、世界の現実を多角的な視点で見られるようになるとともに見過ごされている社会問題に目を向け、自分達にできることを考え、未来に届けたいという思いが込められています。

概略

- 主催
国際ボランティアワークキャンプ実行委員会
(Executive Committee 以下EC)
※高校生の構成メンバー及び構成団体については、裏表紙に記載。
- 分科会アドバイザー
岩坂省吾（フリー・ザ・チルドレン・ジャパン熊本グループ）
木下俊和（大学講師）
大住葉子（FSやつしろ、八代白百合学園高等学校教諭）
大和賢佑（秀岳館高等学校教諭）
尾上香織（JICAデスク熊本国際協力推進員）
澤 克彦（九州地方環境パートナーシップオフィス）
田代智也
- 事務局（一般財団法人 熊本市国際交流振興事業団）
会計責任者 八木浩光
勝谷知美、下田隆文、田上美奈

分科会アドバイザー・事務局

興梠寛先生の講話

報告者 やまかわ 山川 ひとみ 景（第一高校1年）

基調講演では、興梠寛先生にオンラインでお話をして頂きました。今回は新型コロナウイルスの影響でボラキャンが中止になったことにより、Zoomで行われ、準備された資料を見ながら話を聞きました。まず、興梠寛先生がこれまで活動されてきたことについてやボラキャン立ち上げから関わられていたということで当時の活動について聞きました。当時のボラキャンに参加した高校生たちの熱意と努力が理解でき、自分もそういう姿勢でボラキャンに参加したいと思うようになりました。そして、新型コロナウイルスにより、‘国家、民族、宗教などを越えてつながっている’という現実を知る機会になると先生はおっしゃいました。その中で私たちができることを実践していくことが大切だということもおっしゃいました。ボランティアというのはなぜ生まれてきたのか、なぜ学ぶのか、なぜ生きていくのかという問いに答えを出してくれる1つの人生の選択のツールであること、また、他人に必要とされ、自分が他人

を必要とする相互行為であることを述べられました。ボランティアをすることで小さな成功体験を積み重ねていくことができ、それは自分の自己肯定感とつながっていくとお話されました。そのことを聞いて自分のボランティアに対する考え方も変わりました。ボランティアというのは人を助けるものではなく、お互いに必要とするものだということをお忘れずに今後もボラキャンに参加していきたいです。ありがとうございました。



第1分科会 子どもの権利

報告者 ひがしやま 東山 ちほ 千穂（八代白百合学園高校2年）

第1分科会「子どもの権利」は、「子どもの権利条約」について知ってもらうとともに、虐待と児童労働の問題を“ジブンゴト”として捉えてもらうことを目的とした活動を行いました。私たちの分科会は、最終日の朝からということもあり、眠気覚ましとして「今日の朝ごはん」をテーマに山手線ゲームを行った後、活動に入りました。

活動では、最初に、「子どもの権利条約」について“インタビュー風”に説明をしていきました。何歳までが子どもだと思うか？というクイズをし、「子どもの権利条約」が定める子どもの年齢を知ってもらいました。（答：18歳未満）

次に、虐待と児童労働の定義や現状、要因について、クイズなどを交えて説明し、それぞれの問題への理解を深めてもらいました。児童労働ではフォトランゲージというアクティビティを行ったり、アドバイザーである岩坂省吾さんから、フリー・ザ・チルドレンのお話しもいただきました。最後に、「子どもの権利が守られていない世界があったらどうなるか？」というテーマについてウェビング

を行いました。このアクティビティを通して、何か一つの問題・課題が解決したからといって、子どもたちが守られる世界が作られることはないということを知ってもらいました。



今回、2時間という時間に短縮となったため、私たちが話す時間のほうが多くなってしまったのですが、みんな真剣に話を聞いてくれて、たくさんの意見も出してくれました。ECのみんなも動画を見てくださった皆さんも、今回私たち5人が伝えたことを通して、明日からできるアクションをぜひ考えてみてください！

この活動に携わって頂いた全ての方々、本当にありがとうございました。



第2分科会

「Well-Being ～より良く生きる～」

報告者 ^{やまだ}山田 ^{もね}百音（八代白百合学園高校2年）

こんにちは。第2分科会「Well-Being」です。

突然ですが、あなたにとっての“幸せ”とは何ですか？と聞かれたら、きっと様々な答えが出てくると思います。「部活でシュートを決めた時」、「遠くにいる友達に会えた時」、「成績が良かった時」…など、1人1人の幸せがあります。そんな“幸せ”の一方で‘失敗’や‘挫折’などの経験をしたこともあるのではないのでしょうか？その時、みなさんはどう感じましたか？

一度は「もうダメだ」と自分を責めたり、ネガティブな感情に陥ってしまったりしたことはありませんか？しかし、その経験のおかげで、今の皆さんがここにいるのではないのでしょうか？

「次は頑張ろう！」「私ならできる」「もう一度やってみよう」といった前向きな気持ちと‘悔しさ’をおりませながら新たな一歩を踏み出し進んでいくこと…これも1つの“Well-Being（幸せ）”のカタチだと思います。私たちの分科会では、「七転び八起き」というワークをしました。今までの人生の中で“良かったこと”、“悪かったこと”を模造紙に書いてもらい、それをお互いに共有し、自分を重ね、新たな“Well-Being”を発見し、気づくことができました。中には、第一志望に合格できてよかった、全国大会に行くことができ

て嬉しかった、ライブが中止で悲しかった、ボラキャンが中止で悔しかったとの意見もありました。

最後に1人1人に自分の“Well-Being”の宣言をしてもらいました。「私は常に前向きに生きていく」、「1日1回笑う」、「自分を好きになる」、「小さな成功体験を積み重ねる」、「人に優しくなる」、など1人1人の前向きな宣言を聞くことができました。

人生は長いようで、とても短いです。今の私たちの“高校時代”は本当に短く、かけがえのないものだと思います。そんな“今”を生きている私達だからこそ、一度自分自身と向き合い、日々の幸せに気づき、感謝をしていくことが大切だと思います。自分のことを“Well-Being（幸せ）”にしていきたいと思います！ありがとうございました。



第3分科会

多文化共生

報告者 ^{おう}王 ^{はくりん}柏滄（必由館高校2年）

私たち第3分科会「多文化共生」では、「多文化共生のBefore&After」をテーマにし、活動をしました。初めに自己紹介をし、多文化共生についてのイメージを聞いた後、色々な意見を出してもらい、多文化共生の定義について説明をしました。より分かりやすくするために国際交流と多文化共生の違いについて説明をしました。

次にプレゼンを2つしました。1つ目は、熊本市に在住する外国人の人口が最も多い2か国、中国とベトナムの文化や日本との違いについて紹介をしたり、2つ目の人種差別のプレゼンでは、偏見や固定観念による差別、SNSやデモでの誹謗中傷による差別、正しい知識がないことから生まれる差別をポイントに発表し、改めて自分の中の行動を見直しこれから自分がどのように行動するべきかを考えてもらうきっかけとしました。2つのプレゼンを通して、多文化共生の基本的なことや現状について知ってもらう機会としました。次に、親の都合等により急遽、海外から日本にくることになったEC2人の体験談として、一人は中学3年生の時に韓国からきた山川さん、そして、小学4年生でシンガポールからきた私が、日本との違いや日本にきて大変だったことなどを具体的に話しました。

また、海外から来た大変さを実感してもらうために英語と韓国語



による体験授業をしました。この活動では、日本語での会話や周りとの相談を一切禁止にしたので、私のように突然、海外から日本に来ることになった人達の気持ちが少しは伝わったのかなと思います。そして最後に、もう一度多文化共生のイメージをみんなに聞きました。ワークやプレゼン等を通して考えてもらったため、とてもいい意見がたくさん出て本当によかったです。

外国人住民が増えている現在は家族を日本に呼び寄せるケースも増えてきています。共に生きていくためには、多文化共生をしっかりと理解することが大切になってくると思います。この分科会を通して、多くの人に多文化共生について知ってもらう機会になればと思います。

今年は例年より遅いスタートとなり、新型コロナウイルスの影響もあり、思うように分科会の準備を進めることができませんでしたが、アドバイザーの方々やECのみんなのお陰でとても素晴らしいものに仕上げることができたと思っています。今回は分科会の内容を2時間に集約した形での収録となりましたが、みんなが積極的に取り組んでくれたのでとても充実した分科会になりました。ECのみんな、アドバイザーの皆さん、本当にありがとうございました。



第4分科会では、ECがいじめ・不登校・夢が持てない生徒が多いことに問題意識を持っていたため、学校の問題の外的要因（学校のカリキュラムなどの外部に求められる要因）と内的要因（自分の考え方など内部に求められる要因）について考えられる活動を計画していました。しかし、今回はプログラムを短縮して行うことになったため、内的要因をメインに自分自身と自分の将来について考えました。

初めにECが自己紹介を行い、アイスブレイクでひらめきクイズをしました。次に、ECによる上記の課題・教育と自己肯定感の関わりについてプレゼンを行いました。その後、自分を振り返るワークシートを記入してもらい、11人の代表者に発表してもらいました。そして、ワークシートで自分の得意なことや苦手なこと等理解してもらい、それを活かして自分の将来設計をしてもらいました。ここでは、〇歳に就職して、〇歳

に結婚するなど将来の理想を書くだけではあまり意味がないと感じていたの
で、もし大学に



落ちてしまったら…や、〇歳で病気になってしまったら…など、もしものことが起きたらどのような行動を取るのかも考えてもらいました。また、この活動ではワークシート記入の進み具合に個人差が出るので、時間を区切って全体に指示するのではなく、個人のペースに合わせて1人1人に指示することを心がけました。誰にでも得意不得意はあるので、1人1人に目を配れるようになってほしいこと、今後の教育が画一的すぎるものではなく、上記のような教育になってほしいということを伝えました。その後、今までの活動を通して、小さいことでも自分が今できることを考え、行動宣言してもらいました。

短い時間でしたが、充実した分科会活動となりました。動画を見てくださった参加者の方々には、身の回りの小さなことから変えられる人になって欲しいです。また、学生生活を生きる上で少しでも前を向いてもらえると幸いです。本当にありがとうございました。



第5分科会「国際協力」では、国際協力への第一歩を踏み出してほしいという思いで活動をしました。

初めに国際協力の定義を説明し、国際協力は現地の人の生活を支えるお手伝いと理解してもらいました。その後、ECが医療・教育・ジェンダーの観点から、調べた途上国の現状をプレゼンしました。次にルワンダで国際協力の活動をしている竹田憲弘氏に、アフリカのイメージのギャップ、ルワンダの現状などをお話ししていただきました。色々なことに興味を持ち、知らない

世界を知ることの楽しさを知ってほしいと伝えられました。その後、国際協力のメリット、デメリットについてプレゼンをしました。現地への影響を考え、相手のことを想って国際協力をするべきだと理解してもらいました。そして、書き損じハガキとペットボトルキャップ収集を通して実



際に国際協力を実践してもらいました。送り先の活動や考えられるメリット・デメリットなどを聞いて国際協力をすることができました。最後に自分にできる国際協力を行動宣言として考えてもらいました。「フェアトレード商品を買う」、「キャップを集める」、「衣服支援をする」など色々な行動宣言ができました。私たちにも募金以外にできる支援があるので知ってもらうことができました。

参加者の皆さんと一緒に活動ができなかったことは悔しいですが、とても充実した活動になったと思います。これが、国際協力や世界の課題を知るきっかけになると私たちは嬉しいです。支えてくださった多くの方々に、本当にありがとうございました。



私達第6分科会は、普段身近すぎてあまり考えることのない「情報」をテーマにしました。「情報とはどのようなものか」を考え直し、多角的な視点で物事(情報)を捉え、事実を見極められるようになってほしいという思いで準備をしました。

まず、発信側の視点で考えました。ある状況を説明し、それを先生、友達、親友に伝える時、それぞれどのような伝え方をするのか考えてもらいました。すると、伝える相手によって、時には、自分の感情が加わることなど、同じ内容でも言い方が変わってしまうことがあるということを実感してもらいました。

次に受け取る側の視点で考えました。1人あたりのGDPの推移と国単位のGDPの推移の2つのデータを渡し印象を聞きました。同じ内容でも視点が違ったら受け取り方は変わるということを絵も用いながら考えてもらい、1つの視点だけで情報を見る危なさを伝えました。

最後に新聞を使いました。まず、2社の同じ内容の記事を事実の部分と記者の意見の部分に分けてもらいました。同じ文章でも事実とも意見とも捉えられた



り、1つの文章の中に事実と意見のどちらも入っていたりするなどし、情報は事実と意見が混じりあって複雑になっているということを知ってもらいました。そして、意見の部分に焦点を当て、2社がそれぞれどのようなことを言いたいのかを読み取り、比べてもらいました。これにより同じ内容でも新聞社によって主に誰に、どのようなことを伝えようとするかが違ってくる場合があることを実感してもらいました。

この分科会を通して私達自身、自分が得た情報、自分の考えだけで物事を見るのではなく、様々な人の立場に立って考えてみて他の捉え方は無いのか、隣の人は自分と同じ考えなのか、など多角的な視点を持って情報、人と関わることを学びました。

今回、ボラキャンを開催できなくなり悔しい気持ちもありますが、それと同時に私達をそばで支えて下さっていた事務局の方やサポーター、アドバイザーの方々、そして参加者の皆さんの存在の大きさを身にしみて感じ、改めて感謝する機会になりました。本当にありがとうございました。



私たち第7分科会では「環境・プラスチック問題」をテーマに私達の暮らしを持続的で豊かにするために明日からできることはなにか、また私たちの生活に必要なプラスチックとどう向き合っていくかというのを2時間程のワークを通して考えてもらいました。

次に本題の分科会のワークの1つである「プラスチッククイズ」をしました。ここではプラスチックの原料や種類、日本のプラゴミの排出量は世界第何位か?をクイズ形式で出題することで楽しく参加者に学んでもらいました。(答:ワースト2位)年間800万トンも排出されている海洋プラゴミがどれ程の量かというのを実感してもらうために東京スカイツリーやジェット機で例えるなど工夫を凝らしました。

その後実際に海洋ゴミが自然や動物にどのような影響を及ぼしているかを動画で見てもらいました。鳥の胃の中から誤って食べてしまったプラスチックを取り出すという目を覆いたくなるような映像もありましたが、参加者はこれが今の現状なんだと真剣な眼差しで見てくださいました。

次になぜ私たちがプラスチックに依存しているのかを知ってもらうためにプラスチックの長所・短所を説明しました。それから、意外と知られていないプラスチックのリサイクルの種類や仕方を図や化学式を使って説明しました。難しかったという声もありましたが、それだけリサイクルには手間や費用がかかり困難だということがわかってもらえたと思います。

続いて参加者の皆さんに身の回りにどれ程プラスチックがあるのかを再認識してもらおうべくどんな製品があるのかを挙げてもらいました。班対抗にしたこともあり、ある班は40を超える製品を挙げてくれました。

次に、「もしプラスチックが無かったら?」をスタバなど具体的な場面の中で考えてもらいました。どの班でもユニークで斬新な案が出ました。そしてこのワークを踏まえて明日から日常生活で実行できるような宣言を考えてもらいました。マイボトル・バックを常に持つといった実践的な宣言から初心に戻り衣服などの材料を藁に置き換える「藁しか勝たん!」など斬新な宣言も出ました。

そして最後に参加者にバズるようなハッシュタグを考えてもらいました。#曲げわっぱのある日常、#マイボトル系女子など面白いハッシュタグがたくさん出ました。

2時間という当初の計画より遥かに短い時間でしたがプラスチック問題について自分たちに今何ができるのかを考えてもらえたと思います。私たちの発表を見て下さった皆様、そして分科会活動をサポートして下さった皆様、本当にありがとうございました。



実行委員長からのメッセージ

報告者 やまかわ 山川 めぐみ 恩（東稜高校2年）

みなさん、こんにちは。

第16回国際ボランティアワークキャンプ実行委員長の山川恩です。

今回は新型コロナウイルスの影響により中止になってしまいましたが、ECのみんなで私たちの半年間の努力を動画という形に残すことができとても嬉しいです。本番を迎える少し前に中止という判断になり、すぐには気持ちの切り替えができないほど落ち込み、今まで頑張ってきたことが全て無駄になるような気持ちでした。しかし、他のECのおかげで気持ちを切り替え、3日間の長い撮影も最後まで頑張ることができたと思います。

今回のボラキャンは、ほとんどのECがボラキャンに参加をしたことがなく、未経験者ばかりだったので、初めは会議も思うように進めることができず、トラブルが多かったと思います。しかし、徐々に会議中に意見を出してくれる人も増え、休憩時間には、どうすればもっと良いボラキャンを作り上げることができるのかをみんなで話し合うこと

ができるようになりました。コロナ禍で対面で会議ができない時はオンラインを駆使して実施したりと、難しい場面もありましたが、毎回の会議を重ねていく中で、自分自身の成長を感じることができたと同時に委員長としてもっと頑張らなきゃという刺激をみんなから受けることもありました。また、外国からきた私のためにやさしい日本語を使ってくれたり、分からない言葉を教えてくれるなど、いろんな場面でみんなには助けられました。

ボラキャンを通して、自分が成長できたのは、30人のECのみんなと、アドバイザーの方々、大学生サポーターの皆さん、そして事務局のみなさんのおかげです。本当にありがとうございました。



動画配信について

2021年の3月に第16回国際ボランティアワークキャンプ実行委員会のキックオフを行い、本ワークキャンプに向けて約5カ月間準備を行ってきました。

その中で分科会活動を中心に動画収録した分を、今回YouTube配信することにしました。

内容

1. はじめのことば
2. ボラキャン紹介ムービー
3. 第16回 実行委員メンバーの紹介
4. 講話

講師：興梠 寛氏 アクティブ・シチズンシップ研究所（ALEC）代表
昭和女子大学コミュニティサービスラーニングセンター顧問

5. 分科会活動

- 第1分科会「子どもの権利」
- 第2分科会「Well-Being・より良く生きる」
- 第3分科会「多文化共生」
- 第4分科会「教育」
- 第5分科会「国際協力」
- 第6分科会「情報」
- 第7分科会「環境・プラスチック問題」

6. 未来職道

活動団体の紹介

7. おわりのことば



動画は下記URL及びQRコードからご覧頂けます

動画URL ⇒ <https://www.kumamoto-if.or.jp/kiji003850/index.html>





①成長できました!!



②Life long memories



③かけがえのない時間を過ごせた!
ボラキャン最高!!



④Important memories
made by everyone



⑤Don't be afraid
to take action



⑥出会いに感謝



⑦何でも積極的に!



⑧Hop Step Jump!!



⑨人に何かを伝える難しさ
を知りました



⑩自分で考え、自分の言葉で
伝えることの大切さを学び
ました



⑪貴重な体験ができた!



⑫経験値UP!!



⑬人見知り克服できた



⑭みんなと協力できて
楽しかった!!



⑮たくさんの出会いが
ありました!!



⑯Having a dream
makes life bright



⑰様々な考え方を学ぶこと
ができた



⑱素敵な経験になりました!



⑲新しい自分に
会える場所



⑳みんなで創り上げる
楽しさを学んだ



㉑皆で協力して
成長できました!



㉒たくさんのことを
学びました



㉓新たな自分に
会えました!!



㉔ボラキャン最高



㉕前向きになれました



㉖Thank you!



㉗It was a happy time!
-幸せな時間でした-



㉘新しいことをたくさん
知れた!



㉙ポジティブになった!!



㉚たくさんの出会いから、
たくさんの学びを得た!!

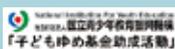
第16回国際ボランティア 高校生実行委員会メンバー

- | | | | | | |
|---------|---------------|--------|------|---------|-----------|
| ①山川 恩 | 東稜高校 (実行委員長) | ⑩田川 華恋 | 文徳高校 | ⑮山田 かりん | 八代白百合学園高校 |
| ②王 柏淪 | 必由館高校 (副委員長) | ⑪下田 泰輝 | 文徳高校 | ⑯山田 百音 | 八代白百合学園高校 |
| ③澤井 未来 | 九州学院高校 (副委員長) | ⑫宮崎 陽大 | 文徳高校 | ⑰東山 千穂 | 八代白百合学園高校 |
| ④戸川 葵 | 第一高校 | ⑬藤本 真生 | 文徳高校 | | |
| ⑤永野 咲 | 第一高校 | ⑭森元 博輝 | 東稜高校 | | |
| ⑥小原 千明 | 第一高校 | ⑮松井 遥香 | 東稜高校 | | |
| ⑦山川 景 | 第一高校 | | | | |
| ⑧本木 暖 | 文徳高校 | | | | |
| ⑨中野 純之介 | 文徳高校 | | | | |
| | | | | ⑮山田 鈴奈 | 東稜高校 |
| | | | | ⑯西岡 美海 | 東稜高校 |
| | | | | ⑰七種 心菜 | 東稜高校 |
| | | | | ⑱田中 陽愛 | 九州学院高校 |
| | | | | ⑲寺本 愛理 | 九州学院高校 |
| | | | | ⑲武次 詩織 | 九州学院高校 |
| | | | | ⑲橋口 芽音 | 必由館高校 |
| | | | | ⑲井上 菜奈子 | 必由館高校 |
| | | | | ⑲濱口 託利 | 必由館高校 |
| | | | | ⑲柳田 菜里 | 熊本北高校 |
| | | | | ⑲福田 優希 | 熊本高校 |
| | | | | ⑲辰巳 詩織 | 国府高校 |

●構成団体/税理士法人近代経営、株式会社日本リモナイト、一般財団法人ドリーム・ラガ 熊本ユネスコ協会、熊本留学生交流推進会議、一般財団法人熊本市国際交流振興事業団

●共催・協賛・協力団体/独立行政法人国際協力機構九州国際センター、日本ボランティア学習協会

令和3年度 子どもゆめ基金助成事業



【事務局】

一般財団法人熊本市国際交流振興事業団
〒860-0806
熊本市中央区花畑町4番18号 熊本市国際交流会館
TEL: 096-359-2121
E-mail: pj-info@kumamoto-if.or.jp
URL: https://www.kumamoto-if.or.jp